小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	山形村社会福祉協議会	代表者	山口　隆也
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所　すばる	管理者	塩原ゆかり

法人・事業所の特徴	法人としては、県内の社協と情報交換をしたり研修会を行い地域福祉や介護保険のサービスを提供している。 事業所としては近隣の同事業所との勉強会・研修会・情報交換の機会を持ち、また医療機関やボランティアとの連携をはかりながら、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ柔軟な対応を行っている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１人	２人	２人	０人	１人	０人	０人	２人	０人	８人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	改善計画を意識して支援ができるよう会議、朝礼等で伝える	・目標を表にして目に留まりやすい場所に貼ったが、見慣れてしまい意識することが少なくなってしまった	・改善計画を計画しても実行までいかないのは、職員に時間的余裕がないのか。自分事としてとらえ、原因から具体的に改善計画につなげていってほしい ・コロナが 5 類になり地域の行事の予定を確認して外出の機会が増えた ・	・定期的に会議などで改善計画を議題にあげ、具体的にどうしていけばよいか話し合い意識できるようにしていく
B．事業所のしつらえ・環境	家族、外部の方へ行事への参加を募りしつらえを見てもらい意見を聞く 引き続き環境整備に努める	・家族へ行事への参加は 1 回募れたが参加所は１名 ・環境整備は、草刈り、大掃除、掲示物の変更など定期的にできた ・防犯対策のため 3 月より職員体制の少ない土日祝日は施錠をするように変更となった	・利用者さんの作品など飾ってあり、アットホームな感じがした ・においや音などについてはたまに来るだけではわからない ・季節を感じる壁面飾りなど工夫して変更できた	・デイルームなど季節感を感じられるように季節に合わせた行事や環境を整える ・事業所の外の草刈りなど環境を整える
C．事業所と地域のかかわり	ボランティア、いちいの里に来る方に掲示板などを使い、すばるのイベントへの参加を募りすばるを知ってもらう	・掲示板への掲示をしてイベントへの参加の声掛けはできなかった ・ボランティアの来所、地域のイベントへの参加はコロナの 5 類移行もあり昨年より多く参加できた ・地域の行事にあわせ繭玉作り、やしょうま作り、七夕などの行事を行った	・事業所のことを知らない人が多いと思う。これからも継続して発信していってほしい ・高齢者と保育園児と定期的に交流できた ・事業所を知ってもらうため「すばるタイムス」を村内回覧してはどうか ・外食を 2 回行い自分でメニューを決め食事ができた ・地域包括支援センター、民生委員へ会議への参加依頼は継続していきたい	・会議へ利用者と関わりのある地域の方、民生委員さんへ参加を今以上にお願いしていく ・地域の方やボランティアさんの受け入れをしていく

D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事を把握し行事に参加できるようにし、地域とのつながりが切れないように支援する	・お祭りなど地域の行事参加はできなかったが、村の行事への参加はでき顔見知りの方との会話ができた	・季節に合ったイベントをいろいろ考え取り組めている ・地域と離れている。地域の人と交流することは大変ではないか	・地域の行事を把握し行事に参加できるようにしていく ・馴染みのある近所の方などとの交流が途切れないように支援する
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進委員で困りごと等の情報を収集し必要があれば事例検討を行う	・困りごとの把握に努めている ・事例検討まではできていない ・運営推進会議での提案や意見などは週 1 回の職員会議で話題にし、改善に努めている ・運営推進会議で事業の様子、利用状況等報告している	・会議が定期的に開催され情報等様子を共有できた ・来年度は、常勤職員にも順次参加して、顔なじみになり、運営推進委員会を知ってもらう	・運営推進会議の際地域の困りごと等を聞き情報収集をする
F．事業所の防災・災害対策	防災マニュアルの再確認、訓練を行う	・防災マニュアルは確認中。BCP（業務持続計画）を作成した。今後は定期更新必要となる ・避難訓練を中心に行った	・運営推進委員も防災訓練に参加した方がよいのではないか ・区の防災訓練に参加しているか。AED の訓練も必要 ・災害時の対応について共有していく必要がある	・BCP（業務持続計画）の研修、訓練を行い、職員の意識統一を行う